

1 企業誘致について

町民の声

- ・菱喰内工業団地に空きがあるようだが、積極的な誘致活動の考えは。
- ・「※コストコ」のような商業施設を誘致し、地域経済の活性化を図る考えは。
※コストコ：アメリカ生まれの大型会員制の倉庫店

議会から町へ

- ・雇用確保と定住につながる誘致活動は。

町から 地域に即した企業誘致を検討

- ・工業団地の空きは現在なし。
- ・企業が海外に進出していく中、これまでの工場等誘致とは異なる誘致活動が必要であることから、地域に即した方法を検討していく。

2 若者の起業支援について

町民の声

- ・地方に若者が就職しないので、町の人材確保支援が必要だ。

議会から町へ

- ・若者の新規起業支援は。

町から 国・県の情報収集と効果的な支援を検討

- ・起業（創業）支援については、町の発展のためにも重要な課題であり、特に若者の起業（創業）は、地域の活性化に必要不可欠であると考えている。
今後は、起業家への支援に関連する国・県事業の情報収集を行うとともに、関係担当課と連携した上で効果的な支援を検討する。

3 地域公共交通の見直しについて

町民の声

- ・デマンド交通の運用コースが決まっているので不便である。
- ・スーパー等に直接乗り入れして欲しい。

議会から町へ

- ・要望に沿ったデマンド交通（ドアツードア）の見直しは。

町から 福祉タクシー利用助成券の運用で連携

- ・タクシーとは根本的に異なるサービスであることを分かり易く周知し、既存サービスである福祉タクシー利用助成券の運用と連携を図りながら対応する。

4 エネルギー対策について

町民の声

- ・豊富な水を利用した、小水力発電事業に取り組む考えはないか。
- ・太陽光パネルは負の財産であり、設置は反対である。

議会から町へ

- ・太陽光パネル設置と景観対策は。

町から 景観に配慮する行政指導を実施

- ・太陽光パネルについては、良好な景観の形成を図る目的から平成26年4月1日、那須町景観条例を改正し、一定規模以上の太陽光発電施設を届出の対象行為であると明確にし、周囲の景観に配慮したものとなるよう誘導しているところである。
従って、設置を禁止するということではなく基準等に適合し、景観に配慮した計画であれば、届け出を受理し設置を認めている。
- ・1ヘクタールを超える土地利用については、要綱に基づき事前協議を実施している。
- ・再生可能エネルギーの活用は必要不可欠であり、町の特性に即したエネルギー活用について検討を図っていききたい。

5 温暖化対策について

町民の声

- ・町として、何か温暖化対策に取り組んでいるのか。

議会から町へ

- ・温暖化対策への取り組みは。

町から 地球温暖化対策の積極的な取り組みの推進

- ・公用車の購入の際に、電気自動車や低燃費車を導入している。ごみの分別を徹底することにより、リサイクル率を向上している。
- ・環境負荷の少ないエネルギーの普及促進を図るため、一般住宅の太陽光発電システム設置費用の助成を行っている。また、那須地域の行政・事業者・消費者団体が一体となりレジ袋削減推進協議会を立ち上げ、マイバッグコンテストを実施する等、消費者を中心にレジ袋削減の啓発を行っている。
今後は、広報やホームページ等を活用し、町民や事業者に地球温暖化対策に向けた自主的かつ積極的な取り組みを促すとともに、町自らも事業者・消費者の一員とし率先して温室効果ガスの排出抑制に努めていきたいと考えている。

6 火山防災対策について

町民の声

- ・防災マップはあるが、災害発生時のマニュアルがない。
- ・火山対策を入れた、ハザードマップの見直しを。

議会から町へ

- ・防災発生マニュアルと避難訓練の考えは。

町から 「那須岳火山防災ハンドブック」を作成配布

- ・防災マップについては、平成27年度でハザードを入れたマップに更新することとしている。
- ・火山災害については、対策が多岐にわたることから別冊で「那須岳火山防災ハンドブック」を作成し配布している。

7 消防団対策について

町民の声

- ・団員の確保が出来ない。
- ・昼間の活動に支障が出ている。

議会から町へ

- ・団員確保と昼間の出動体制は。

町から 機能別団員及び役場職員で出動体制を確立

- ・平成26年度から「那須町消防団組織強化等に関する検討会議」を設置し、団員確保に向けた取り組みを検討・実施中である。
- ・機能別団員制度を導入し、昼間の活動人数を確保している。
- ・役場職員で構成される班を創設し、昼間の活動人数を確保している。
- ・消防団活動への理解を深めることを目的に、町広報紙へ活動内容を掲載するなど団員確保に努めている。

8 財政計画について

町民の意見・要望

- ・支出のみアドバルーンが見えて、収入対策が見えてこない。
- ・このままでは、町が破綻する。

議会から町へ

- ・長期・安定的な財源確保は。

町から

※インバウンド効果及び移住者増加による新たな財源確保

- ・平成22年10月に策定した「那須町行財政改革アクションプラン」に基づき、改革に取り組んできた。平成28年度からは、今年度新たに作成する「第2次那須町行財政改革アクションプラン」に基づき、町税収納体制の強化による収納率の向上を図るとともに、外国人観光客誘致対策等による地域経済の活性化や定住促進対策による移住者の増加等により新たな財源の確保を図っていく。
- ※インバウンド 旅行業界で、海外から国内へ来る観光客

9 公共施設の整備について

町民の声

- ・公共施設の戸別パンフレットはあるが、施設への案内表示が少ない。
- ・施設駐車場のラインの引き直しが必要である。

議会から町へ

- ・公共施設の案内表示の改善は。

町から

案内表示・看板等に不備があれば整備

- ・公共施設の案内表示については、屋外広告物条例等の規定に従って適正な設置をしている。
なお、見にくい看板等があれば、個別に対応したいので町へ情報提供をいただきたい。

10 防犯・街路灯の整備について

町民の声

- ・既存施設のLED化ができないか。
- ・防犯・街路灯の設置整備を町負担でできないか。

議会から町へ

- ・防犯・街路灯設置の推進及びLED化による管理低減は。

町から

町補助金等を活用のうえ設置を

- ・防犯灯及び街路灯の設置及び既設防犯灯のLED化については、町補助金を活用し自治会等に設置・管理をお願いしており、引き続きご理解とご協力をお願いしたい。
- ・街路灯については、町内商店街の美化、商工業経営の近代化の促進及び明るく住みよい町づくりを目的として、設置、改修の助成を行っております。
(商店会、組合、自治会等)

11 交通安全施設整備について

町民の声

- ・県道及び町道の危険個所でのカーブミラーが不足している。
- ・交通安全の確保を図られたい。

議会から町へ

- ・カーブミラーの設置対策は。

町から

現地を調査し適宜カーブミラーを設置

- ・カーブや交差点等において視界が悪い場所については、住民等の要望により現地を調査し、適宜カーブミラーを設置しているので(県道は栃木県が設置している。)、危険箇所があれば町へ情報提供いただきたい。
(カーブミラーの設置が効果的でない場合やそれ自体を注意喚起物としたいなどの場合は、要望にお応えできない場合がある)

12 地域づくり対策について

町民の声

- ・自治会加入が少ない。
- ・地域特性を生かし、行政と一体的な地域づくりの体制は。

議会から町へ

- ・地域コミュニケーションと自治会加入促進は。

町から

「那須町暮らしの案内DVD」の作成、地域コミュニケーションの推進

- ・町内へ転入された方には、転入手続を行う住民生活課の窓口において、行政連絡員や自治会活動についての案内をしている。また、那須町自治会連合会において、「自治会加入促進マニュアル」を平成24年4月に作成し活用している。さらに、自治会や消防などの活動内容を周知する「那須町暮らしの案内DVD」制作を予定している。
- ・地域づくり委員会やNPO、ボランティア団体などが自主的・自発的活動を実施することで、地域コミュニティのさらなる活性化を図っていく。今後とも、町民と行政のパートナーシップを重視し、協働によるまちづくり推進に支援を行っていく。

13 その他

町民の声

- ・各地で分譲地が荒廃化しているが、町の対策は。
- ・特殊詐欺が多様化しているが対策は。

議会から町へ

- ・分譲地荒廃及び特殊詐欺対策は。

町から

分譲地荒廃化防止と消費センターの体制強化に取り組む

- ・分譲地の「荒廃化」が何を指しているか定かではないが、ごみの不法投棄の防止対策については環境課が、廃屋・空家対策についてはふるさと定住課が、各種対策を講じて、分譲地等の荒廃化の防止に取り組んでいる。
- ・特殊詐欺について、町広報紙やHPを活用しての情報提供や啓発パンフレットの配布等を行なっている。また、消費センターの相談体制の強化を図っている。

14 景観の維持管理について

町民の声

- ・河川、道路などの草刈りやごみ拾いなどは、高齢化、核家族化などにより作業が難しい状況にある。今後、各自治会への協力体制は。

議会から町へ

- ・河川、道路等の景観維持対策は。

町から **町と町民が一体となって道路河川の美化に努めたい**

- ・那須町道路河川愛護会と連携し、町と町民が一体となった道路河川の美化に努めたいと考えている。なお、作業条件などで愛護会での作業が厳しいような箇所については業者に委託し対応していく。

15 若者にむけた定住対策について

町民の声

- ・働く場所の確保や若者が安心して住める町の環境づくり（防犯、子供の通学など）の取り組みは。

議会から町へ

- ・若者が那須に住みたくなる取り組みは。

町から **那須に住みたくなる環境づくりを推進**

- ・子育て世代に優しい団地の整備計画などを行うことにより、那須に住みたくなる環境づくり推進を考えている。
- ・自治会による防犯灯の設置及び既設防犯灯のLED化に対し助成することで、夜間における防犯体制の強化を図っている。

16 町内各地の活性化について

町民の声

- ・黒田原地区・伊王野地区の活性化、古民家などの歴史的建造物の活用は。
- ・湯本温泉街の総合的再生の考えは。

議会から町へ

- ・町内各地の活性化対策についての具体的な取り組みは。

町から **連携を強化し、那須湯本温泉街の再生プランニングを推進**

- ・黒田原駅前映画祭等定着するよう支援する。
- ・町観光の核となる那須温泉街の再生に地元若手経営者と取組むことにより、宿泊業をはじめとする雇用の創出、交流人口の拡大を図ることが期待できる。観光協会や、湯本地域振興協議会等と連携を強化し、那須湯本温泉街の再生プランニングを進めていきたい。

17 農地の維持・管理について

町民の声

- ・遊休農地の有効利用のために新規就農の促進が必要と思うが取り組みは。
- ・農地を維持し、遊休農地を発生させない施策も必要と思うが考えは。

議会から町へ

- ・遊休農地の有効利用と新規就農対策の取り組みは。

町から **新規担い手の育成、確保のため、定住対策と連携**

- ・現在、国の事業である青年就農給付金事業を活用し、新規就農者への支援を行っている。
- ・今後は、担い手の高齢化による荒廃農地の増大が懸念されることから、新規担い手の育成・確保のため、定住対策と連携し農地を住宅付きで貸し付ける事業などを推進する。
- ・また、農業公社の設立により、専門職による農地流動化の推進や作業受託などの事業を推進する。

18 地産地消の推進について

町民の声

- ・那須和牛など、地場産品を手軽に入手でき、消費拡大につながるような取り組みは。

議会から町へ

- ・農畜産物の地産地消の推進と消費拡大は。

町から **関係各課と連携しながら食育などの意識改革を推進**

- ・本町で生産される農畜産物を、町内で消費できるような新たな流通システムの構築を検討している。しかし、新たなシステムの構築には、さまざまな課題があり現在検討委員会を立ち上げ、農畜産物の出荷及び供給体制の構築や供給拠点の設置など検討を進めている。
- ・システム等を構築しても町民自らが地産地消という意識を持たなければ、流通システムを活かすことは難しく、関係各課と連携しながら食育などの意識改革も推進していく。

19 青少年の育成について

町民の声

- ・教育のレベルを上げる考はないのか。

議会から町へ

- ・教育レベルを上げることは、子育て世代の励みになるが町の考えは。

町から **「那須町で学びたい」と思える取組み**

- ・町では「那須町教育ビジョン～夢・感動あふれる人づくり～」を策定し、知・徳・体・コミュニケーションの4領域をバランス良く育てる取り組みを、学校・家庭・地域が一体となって推進している。今後も教育環境の整備に努め、「那須町で学びたい」と思うよう取組みを進める。

20 高齢者対策について

町民の声

- ・高齢者（移動手段のない人）が病院や買い物等に行ける支援を考えて欲しい。

議会から町へ

- ・交通弱者の外出支援の考えは。

町から 外出支援策の充実が必要

- ・交通弱者の外出支援について、交通空白地域と言われる地域を解消し、町内のどこに居住しても公共交通を利用して外出することができるようにするため、デマンド型乗合交通を運行している。デマンドを利用できない高齢者等については、基本的に福祉や介護サービスによる外出支援の対象となることから、これら支援策の充実整理が必要であると考える。

21 ごみ対策について

町民の声

- ・ごみの分別について、「分別が理解されていない人が多い」との苦情を聞いた。
- ・ごみ袋の価格が高い。

議会から町へ

- ・ごみ対策の取り組みは。

町から 分別方法を丁寧に説明

- ・ごみの分別は資源化の推進及びごみ減量化にも不可欠である。ごみの分別方法については、ごみ分別辞典やごみ収集カレンダーを工夫し、分りやすい表記になるよう努めたい。
- ・ごみ袋の価格に関しては、現在の価格を設定したときよりも、ごみ処理費がかかっているため、引き下げは困難な状況である。

22 放射能対策について

町民の声

- ・放射能対策は十分なのか。

議会から町へ

- ・放射能から子どもを守るために、ホットスポットを無くす考えは。

町から フォローアップ除染については、再調査を実施

- ・フォローアップ除染については、子どもへの影響を考慮し、保育園や小中学校を優先して再調査を実施したうえで、合理性や実施可能性を判断したうえで、対処していきたいと考えている。

※フォローアップ除染：新たに汚染がわかった地点や除染不十分な地点があった場合に実施する除染

23 子育て支援について

町民の声

- ・子育ての不安に対し、母親の孤立、悩みを相談する場所はないのか。

議会から町へ

- ・母親が安心できる子育て支援対策は。

現況

子育て応援メールマガジン配信事業を開始

- ・子育て支援センターや民生委員・主任児童委員等の公的機関で対応する。
- ・平成28年1月27日より、子育て応援メールマガジン配信事業を開始している。

24 その他

町民の声

- ・捨て犬の不妊治療費への助成の考えは。

議会から町へ

- ・捨て犬問題の町の考えは。

町から

不妊手術への助成は考えてない

- ・野犬の発生は、飼い主による遺棄や遺棄された犬による繁殖が原因と思われる。これらの原因は飼い主のモラルの欠如やマナー違反と考える。そのようなことから飼い主のモラル、マナー向上を啓発していく。現在のところ不妊手術への助成は考えていない。